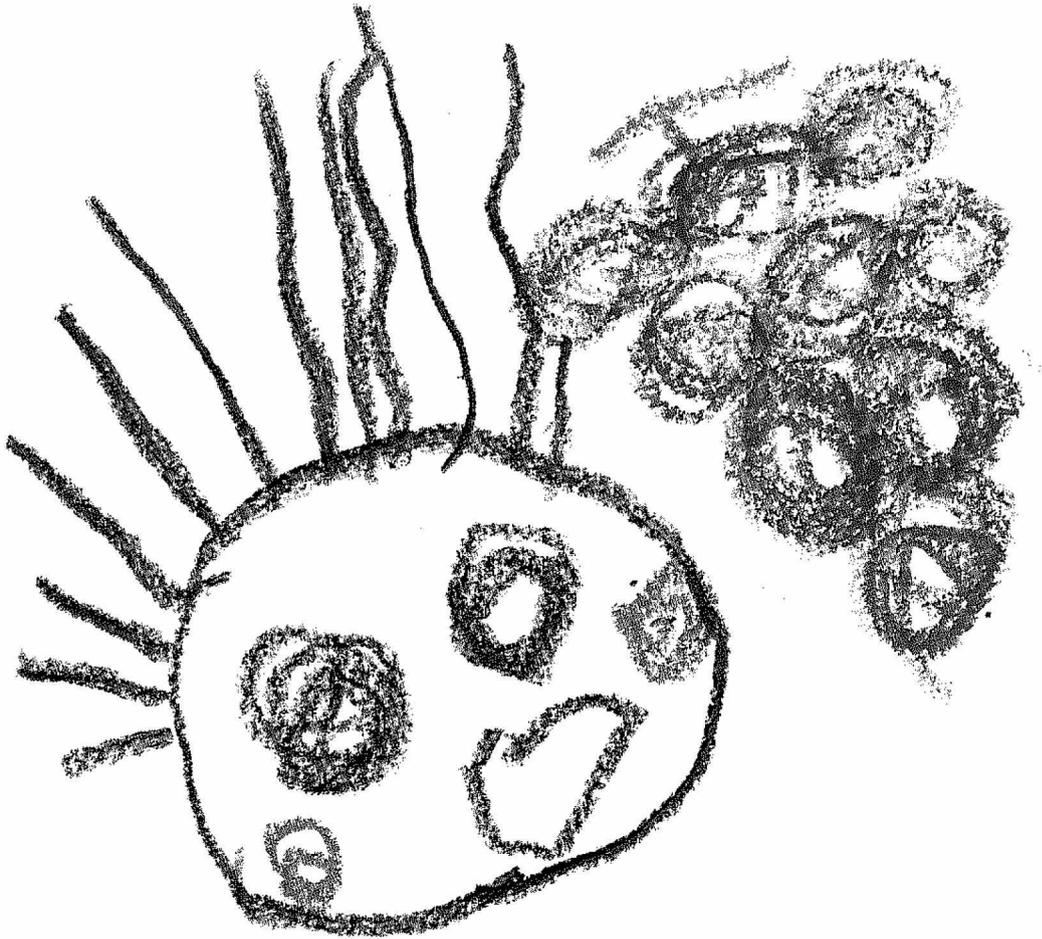


とよたち美肌通信

10月号

Vol. 51



あいり

秋の味覚ぶどうがとても美味しそうな絵です。

まん丸な目と色づいたほっぺたもとてもかわいらしいですね。

歌をうたうことが得意で食べることやプール、砂遊びが好きな女の子が描いて下さいました。

お買い物、お散歩も好きなようで、とても活発で元気な女の子ですね。

院長はじめ、スタッフ一同、心より感謝致します。

ありがとうございました。



医療法人 優慶誠会

豊郷たちかわ皮ふ科クリニック*

私が尊敬する一人に外構工事のプロフェッショナルの方がいます。彼には「見えない所にこそ違いを出す」というこだわりがあります。時折、公共施設の地面に凹凸があったり波打ったりしている所を目にしたことがあるかと思います。これは加重による沈下であり、原因の一つに地面の下のコンクリート等の補強が少なかったり、もしくはそれ自体を行っていなかったりする場合があるそうです。従って彼のチームは事前に車のタイヤ等の加重がかかる場所や歩行者の往来が激しいと予想されるポイントにはあらかじめ十分な補強を強化します。又、一見平坦に見える地面でも降雨による水捌けや傾斜を考慮し僅かな勾配をつけることで最近頻繁に発生するゲリラ豪雨にも対応することができる配慮を怠らないのです。

塀の作成では、強度を考え一般的には必ずしも必須ではない基礎工事及び支柱となる鉄筋やコンクリートでの補強を旨とします。しかし、これに留まらないのがプロフェッショナルと称される所以で、彼曰く外構は設計図通りに作ったからといって必ずしも上質なものになるとは限らない。なぜなら土地の多くは変形を伴うことが多く、植栽や外灯の位置でさえ実際の3次元空間では位置の変更をもって最善となる場合が多いといえます。しかも、植栽の目的（目隠し and or 外観を彩る）によって木の種類を選定したり、外灯の高さや光度に至るまで昼と夜の両方を見比べた後、決定するというこだわり様です。つまり設計図という2次元のみでは測ることの出来ない現場（現実）を見て3次元的に修正を加えていく。実際の現場を常に見ることでしか最善のものは出来ないと彼は断言しています。そして何よりこれを話す彼の目はキラキラと輝きを放っています。

論語に「子曰く これを知るも者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず」。

知っているだけの者は、愛好するものにはかなわない。

愛好する者は、真に楽しむ者にはかなわない。そんな意味でしょう。仕事や人生でもそれを楽しむ境地に至って初めて真の妙味が出てくるということなのでしょう。

これを「知好楽」というそうです。

度々私の「とよ・たち」に登場して頂く（勝手にすみません）京セラ創業者の稲森和夫氏は若かりし会社員だった頃、自分が働く会社を好きになれなかったそうです。

嫌気が差した時ある日突然考え方を変えた。

どう考えたか。自分は素晴らしい会社に勤めている。

素晴らしい仕事をしていると無理矢理思う様にし、仕事に打ち込んだといえます。するとそのうちに仕事が面白くなってきて、会社まで嫌いではなくなってきた。そのうちにリーダーを任される様になり、後に会社の発展に貢献したといえます。

後に稲森氏はその時の事を振り返り、「会社を好きになったこと、仕事を好きになったこと、そのことによって今日の私がある」。氏はそうおっしゃります。

知好楽が人生に強い影響を及ぼした例であり、私の人生においても教訓となる話です。私の尊敬する外構のプロフェッショナルもまた、正に知好楽を貫いています。

院長・拝